

## 学内における活動

### 1 岐阜イノベーション工房

イノベーション創出に挑戦する風土を岐阜県内に醸成することを目的とした 2018 年度からの継続事業。4 年目となる今年度は、株式会社 AI アクティブ(ソフトウェア販売、制作受託など)、株式会社イマオコーポレーション(機械部品製造、製造情報システムなど)、岐阜かかみがはら航空宇宙博物館(公共施設:博物館)、株式会社十六総合研究所(調査研究・経営コンサルティングなど)、計 4 組織より 14 名が参加し、2つのオンデマンド演習、6回のリアルタイム演習に続き、各企業内で約3ヶ月間の実習に取り組んだ。今年度参加者と前年度までの参加者、合計8組織の成果は2022年3月24日に開催した成果報告会で発表し、うち1社は実際に市場に導入したプロダクトを発表した。事業の統括とリアルタイム演習の講師を担当。

<https://sites.google.com/iamas.ac.jp/gifu-innovation-workshop/>

### 2 岐阜クリエイション工房

人文知と工学知の界面であるメディア表現に取り組む「アーティスト」たちと高校生などの若者たちが、共に試行錯誤しながら作品をつくることを通じて、発想力や創造力を学ぶ3つのワークショップ(3年目)。「食のパーソナライゼーションから考える新しいコミュニケーション」には3名が参加。自分でベーグルを作り、誰かと一緒に食べ、第三者にシェアした時に発生したコミュニケーションまでを記録し、その過程での自身と他者との感覚の差異や気持ちについて議論することを通して、「おいしい」について考察を深めた。「未来の”まつり”を創造する」には2名が参加。オンライン上のコミュニケーションが増え、祭りも消えゆく昨今、どうやってアソシエーション(つながり・共同体)を築いていくのかについて、未来にありえるかもしれないオンライン上の祭りを、影絵と音楽という手法により想像、創作しながら考えた。「AIのまなざしと作る Photobook」には12名が参加。顔認証AIを使って「顔のように見える植物」を探すなど、そのAI本来の使い方ではない「誤用」により一味違った Photobook 作りに挑戦することを通じて、AIとの関係について考えた。事業の統括と成果報告会の運営を担当。

<https://sites.google.com/iamas.ac.jp/gifu-creation-workshop/>



### 3 入学試験委員会(委員長)

今年度は、前年度に対面からオンラインへと変更した入学試験を安定して運用できるよう漸進的な改良を加えつつ、大きく2つの変革に取り組んだ。まず、博士前期課程(修士)一般入試でこれまで行ってきた論述試験を、出願書類の事前課題(論述)に置き換えた(2022年度に実施する入学試験より適用)。これにより、オンラインでの論述試験で課題となっていた、入学試験運営の負荷を適正なレベルに留めつつ、これまで以上に適切に受験生の論述能力を評価できるようになった。また、博士後期課程(博士)に関して、応募書類の提出方法としてオンラインを採用した。これにより、受験生側にとっては提出しやすくなり、事務局側にとっては提出後の事務作業の負担を軽減できた。

### 1 革新的イノベーション創出プログラム(COI STREAM)

「感性とデジタル製造を直結し、生活者の創造性を拡張するファブ地球社会創造拠点」(中核拠点：慶應義塾大学、 Grant 番号：JPMJCE1314)に参画機関の研究者として参加した(9年間の最終年度)。これまで行ってきた研究のうち、日本におけるハッカソンに関して、約10年間の変化、2021年の開催状況、現時点における可能性と課題に関する有識者との議論などをまとめた小冊子『もう一度ハッカソンについて語ろう』を製作した。



### 2 グッドデザイン賞 2021

公益財団法人日本デザイン振興会が主催する総合的なデザイン賞に、「ユニット06:映像/音響/情報機器」の審査員として参加した。

### 3 慶應義塾大学 非常勤講師

慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科において、「サービスデザイン特論」「サービスデザインプロジェクト A」を担当し、イノベーションマネジメントについて知見を提供した。